

情報発信の工夫いろいろ

～広報誌とホームページを中心に～

情報の発信はボランティアセンターの大きな役割の一つです。ボランティア・市民活動の推進のために、地域に向けて啓発や活動のきっかけづくりをめざすとともに、ボランティア・市民活動をすすめる個人やグループに向けて活動を支援するための多様な情報を提供します。必要な人に必要な情報を、いかにわかりやすく的確に届けるか、情報提供の主な手段である広報誌とホームページについて各地の工夫をご紹介します。

ながのボランティアかわらばん編集委員会 (長野県／長野市ボランティアセンター) ボランティアかわらばん

A4判8頁 月刊

表紙にゲームを用いたり、親しみやすいイラストが多用されている。20～70代の約15人のVで構成する「ながのボランティアかわらばん編集委員会」が作成し、企画、発送業務、配達と役割分担をしている。地方新聞の販売センターの社会貢献として無償で、一部地域に新聞に折り込んで配布されている。



担当者の一言 「多くのボランティアが「かわらばん」に関わることで、日々変化するボランティアの現状を常に取り入れていきたいと思います。」

鶴ヶ島市ボランティアセンター (埼玉県／鶴ヶ島市社会福祉協議会) ボランティアセンターミニ情報 Heart

A4判4頁 月刊

高校生や大学生のVスタッフが、Heart取材班としてかわり、若い感性を活かして取材している。また、市社協ホームページの中の「ボランティアの広場」も、パソコンボランティアが特技を活かしてつくっている。



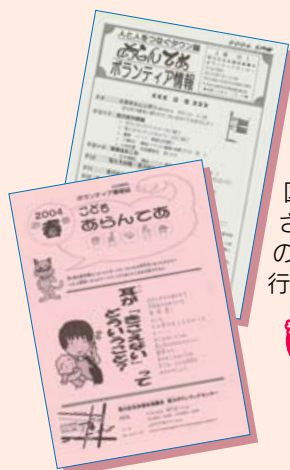
→ <http://www.onyx.dti.ne.jp/~tsurusha/hiroba/index.html>

担当者の一言 「社協からの一方的なお知らせではなく、V活動をしている人の思いを、作業をともに行う中で、一緒に情報発信していきたいと思っています。」

荒川ボランティアセンター (東京都／荒川区社会福祉協議会)

こどもあらんてあ A4版4頁 年4回

年2回は小学生の記者を募集し、福祉に関わるトピックを取材してもらい、わかりやすくA4判の紙面にまとめている。「こどもあらんてあ」は、小学生向けのボランティア情報として、区内の公立学校で全生徒に配布されている。その他に、一般向けの広報誌「あらんてあ」(月刊)も発行している。



担当者の一言 「V活動を身近に感じてもらえる情報提供を行う中で、V活動や福祉活動の楽しさ、喜びなどを伝えたいと思います。」

安城市ボランティアセンター (愛知県／安城市社会福祉協議会) あんじょうボランティア情報 はあーとふる

A4版4頁 年4回

市公報と一緒に全戸配布されているVセンター広報紙。社協ではこのほかに「ふくしのまち安城」「ふれあいサービスセンターだより ハートン」(それぞれ年4回発行)の2種の広報紙があり、毎月いずれかの広報紙を各家庭に届けている。



担当者の一言 「いかに話を引き出すか苦労していますが、取材を通じて生のV活動が見えてくるので、スタッフの勉強になっています。」

大阪市ボランティア情報センター (大阪市社会福祉協議会) COMVO B5判20頁 月刊

市営地下鉄全駅、私鉄の一部の駅、市内図書館、府内の大学(希望のみ)、市内の高等学校、市信用金庫府内各店など多様な場所で配布している。発行経費は、助成金や広告料で賄う。大学生ボランティアが一つのコーナーの企画から原稿作成まで担当するなど、誌面への市民参加を図っている。



担当者の一言 「ボランティア活動を推進する広報媒体を、公民共同で発行するために、企業に広告掲載をお願いしています。市民がつくりあげる情報誌になればと思っています。」

静内町ボランティアセンター (北海道／静内町社会福祉協議会)

<http://www.neyagawa-shakyo.or.jp/>

明るいオレンジを基調にしたサイト。V体験メニューは、「はじめの一步体験メニュー」「あなたの特技活かしませんか」など、つい見てみたくなるタイトルがついている。また、Vセンター職員が毎日更新する「ひとりごと日誌」は、職員の人となりかわれ、Vセンターが身近に感じられる。



担当者の一言 「繰り返し見てもらえるよう、更新は毎日しています。また、市民から気軽に意見が寄せられるように掲示板もつくりました。若い世代からメールがあり、ホームページが活動のきっかけになればよいと思います。」

青森市ボランティアセンター (青森県／青森市社会福祉協議会)

<http://www.aomoricity-shakyo.or.jp/volunteer>

V関連事業や体験Vについて詳しい情報が得られ、初めてVをやってみようという人がV活動のイメージをつかみやすいように作られている。また、Vセンターへの登録やV体験活動の申し込み用紙がダウンロードできるのも便利。V用語解説コーナーも充実している。

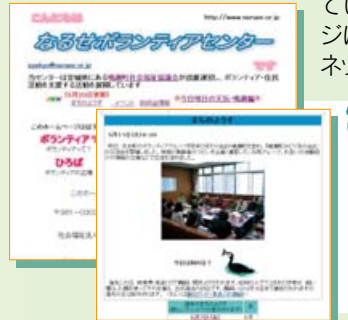


担当者の一言 「V体験活動を紹介する冊子を作成中ですが、ホームページでも体験活動への参加の働きかけをしていきたいと考えています。」

なるせボランティアセンター (宮城県／鳴瀬町社会福祉協議会)

<http://www.naruse.or.jp/>

写真入りで、日々のいきいきとした活動状況を紹介する「まちのようす」コーナーや鳴瀬町のピンポイント天気予報、また携帯対応サイトも解説するなど、よく工夫されたサイトとなっている。災害時には専用ページによる速やかな情報発信で、ネットの威力を発揮する。



担当者の一言 URLを短くしてアクセスを簡素化し、情報を早く知らせ、終わったことは速やかに削除するように注意しています。最近はアクセシビリティ(利用しやすさ)の向上に気を付けています。

寝屋川市社会福祉協議会 (大阪府)

<http://www.neyagawa-shakyo.or.jp/>

社協のホームページを、ホームページボランティア「くりっくねつと☆」が制作している。「くりっくねつと☆」では毎月1回例会を持ち、議論の上ホームページの更新を行う他、適宜メンバーが更新。ホームページ作成便利ページは、担当者に役立つ情報満載。さらにH16年4月からは、「ボランティアセンター通信」の紙面づくりも担当している。



担当者の一言 「ホームページボランティアは福祉に詳しい人ばかりではないので、市民の目線でつくる、誰もがわかりやすいホームページをめざしています。」

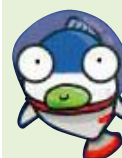
横浜市ボランティアセンター (横浜市社会福祉協議会) 子どもホームページ <http://www.covora.net>

キャラクター“ボラちゃん”が親しみやすさを添える、横浜市ボランティアセンターのホームページ。その中の、平成13年に立ち上げた『こどもふくしホームページ』というサイトは、職員が子ども向けに企画し発信してきたが、子ども自らの視点で創り出した方がおもしろいのでは？ ということで、市内の中学生を中心に子どもによる子どものためのホームページ『ハマツちゃんS.ネット』がスタート。サイトのネーミ



ングから企画、キャラクター作成、取材なども子どもたちが行っている。

担当者の一言 「子どもたちの視点を大切に考え、大人たち(スタッフやボランティア)は一步下って、子どもたちの活動を見守るようにしました。子どもたちも学校とは違う場での活動を楽しんでいます。」



ますます広がるインターネット 簡潔で正確な 情報発信を大切に

1. インターネットの利点とその可能性

◆場所、時間を選ばず、いつでも情報が得られる

インターネットは、ますます便利で身近な情報源となることが予想され、特に若い世代では、携帯対応サイトの普及も手伝ってインターネットが大きく活用されている。水道や電気と同じように、インターネットも情報のライフラインとなっていくことが予想される。

しかし、どんなに環境が整備されても、インターネットを使わない層はいる。紙媒体など、常にその他の媒体を併用した情報発信を考えていく必要がある。

2. インターネットによる情報発信の特徴

◆きっかけづくりを目的に、簡単にわかりやすく

インターネットによる情報発信は、人と人がつながることや、コミュニケーションを図るためのきっかけをつくるという役割だと考えた方がよい。インターネットに情報の全てを載せることはできないし、載せるべきでもない(情報が多すぎると読みきれない)。目的の情報があるということとある場所を知らせられればよいので、ホームページでは、簡潔でわかりやすいサマリー(要約)のみで充分である。

◆受け手からの反応が返ってきやすい

広報誌など印刷媒体の情報提供に比べ、インターネットは読者からの反応が返ってきやすい。漠然とした段階の疑問や意見が返ってくることもあるが、人の思いは本来漠然としたかたちから始まるはず。意図が明確でなくても丁寧に対応していくと、大切なことに気付かせられたり、コミュニケーションが始まることもある。

3. ホームページ制作のポイント

◆「信頼されるデータ」と「親しみやすさ」がポイント

まずはデータが正確であることが一番重要。文章は誰でも理解できるように、わかりやすく、簡潔に表現することが大切である。

また、データはこまめに更新することが必要である。情報をアップするだけではなく、終わった内容を素早く削除することもホームページの信頼性を高めることになる。

受け手が「読んでみたい」「また見てみたい」と思うようなサイトは、親しみのもてる画面作りから始まる。作り手の趣味にあわせて、ホームページは自由自在に構成できるので工夫してみよう。

◆数多くのサイトを見てみよう

ホームページを初めて作るときは、いろいろなサイトを見て、イメージをつかむこと。よくできていると思うサイトがあれば、見る立場に立って、なぜ見やすいのか考えてみるのが上達につながる。

データをそのまま持ってきてしまうのは著作権法で禁じられているが、見せ方や作り方を真似することは、上達の早道。マナーをわきまえて、他サイトのいいところはどんどん参考にして、好感度の高いホームページをめざそう。

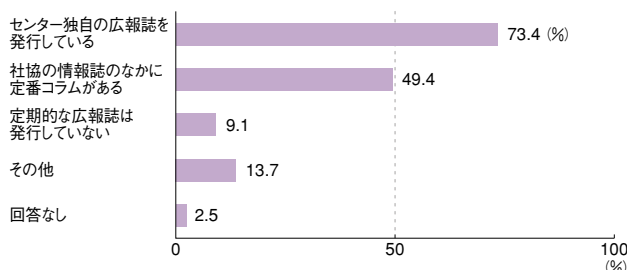


NHK ボランティアネット <http://www.nhk.or.jp/nhkvnet/top.html>

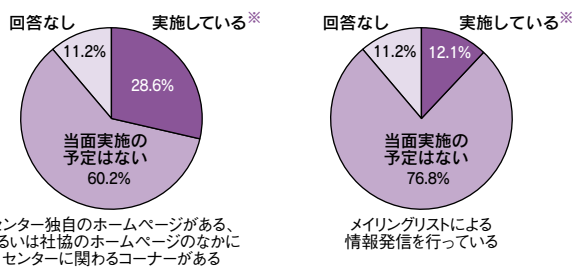
インターネットに接続している利用者は現在1120万人*、今後もますます発達していくことが予想され、情報伝達の面でインターネットは大変大きなメディアとなってきました。ホームページを開設するボランティアセンターも増えている中、NHK ボランティアネットの福田伸之さんに、インターネットによる情報発信についてのポイントを伺いました。その内容はインターネットに限らず、情報発信を行ううえで共通する考え方でもあり、紙媒体の制作においても参考にしてください。(※平成16年3月末：総務省調べ)

平成15年度市区町村ボランティア養成等事業関係調査報告書より

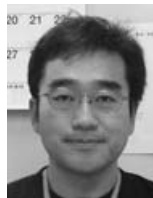
定期的な広報誌(紙)等の発行状況(複数回答)



ホームページ・メーリングリストの実施状況



平成12～14年に「ボランティア養成等事業」の指定を受けた258社協(有効回答数241)のアンケート調査結果による。※平成15年に実施予定を含む。



NHK ボランティアネット
システムマネジメント担当スタッフ
福田伸之氏

例えば「ボランティア」という言葉で検索をかけると、非常に大量の情報が出てきます。でも、100万件ヒットしたとしても、本当に必要としている情報は、その中のごく一部。ボランティアに関して、世界中の情報が得られても、実際に役に立つのは身近な地域の情報だということです。だから、地域のボランティアセンターからの情報発信は大変重要だと思います。

ホームページからの情報発信は、印刷物に比べて反応が返ってきやすいとは言っても、なかなか完全な双方向とはならないものです。10対1、20対1がいいところでしょう。反応が返ってくることを期待せず、まずは正確な情報発信を心がけることです。

ホームページの特徴に、修正がいつでも可能ということがあります。紙媒体の広報誌では、つくってしまうと修正はできませんが、ホームページはつくった翌日でも修正は可能です。また、掲示板などの機能をたくさん盛り込むと、あとのメンテナンスで苦労することがよくあります。まずは、できるところから少しずつ作っていけばよいでしょう。

それと、一人で作ろうとしないで、周りの才能を活用することです。職場内、地域のボランティアを募集して進めることで、人と人とのつながりができていきます。ホームページを作ることで、いろいろな対話が始まるといいですね。